

和紙アート未来へ展

和紙アートが千年先の未来へ生きますように

2014.3.8 (sat) - 3.24 (mon)

安部栄四郎記念館 展示室1階・2階・ロビー

[開館時間] 午前9時～午後5時(毎週火曜休館)

[入館料] 大人500円・大高生300円・中小生200円

[主催] 和紙で結ぶ地域交流と国際交流事業実行委員会
(安部栄四郎記念館内)



ヌイット[Inuit]

国立民族学博物館所蔵

カナダ先住民の生み出す美
～海を渡った日本版画と和紙が、極北の民と交流～

2014年
1月17日(金) >>> 30日(木)

開場時間／8:30～17:00(観覧受付は16:30まで)
※1月17日(金)[初日]の企画展観覧は9:00からとなります。

入場料／基本展示観覧料に含む(大人500円 小・中学生250円)
*20名以上の団体は、2割引

松江歴史館
〒690-0887 松江市殿町279番地 TEL 0852-32-1607 FAX 0852-32-1611
主 催：和紙で結ぶ地域交流と国際交流事業実行委員会(安部栄四郎記念館内)
共 催：松江市(松江歴史館)
後 援：カナダ大使館
特別協力：国立民族学博物館

誇らしげな父親 ケーレー・ミーウーミー・サミュアリー(1975年)

イヌイット版画なぜ和紙が使われるようになったのか

1950年代、当時カナダ政府の職員だったジェームズ・ヒューストンという人が、いち早くイヌイット民族の芸術性を見いだしていました。

ある日、イヌイット住民の一人が、ヒューストンの持っていた煙草の外箱を見て、こういったそうです。「毎日同じ絵柄を描くのなんて退屈で、私たちは、到底できないことだ」と。

実は、イヌイットの住民は、版画というものを全く知らなかったのです。それに、紙を使うという習慣自体もなかったのです。

ヒューストンは、そこで聞いたのです。イヌイットの彫刻技術があれば、版画を商品にでき、少しでも彼らの生活が楽になるのではないかと…

そして、ヒューストンは、58年末から59年初めにかけて来日し、松江出身の版画家平塚運一氏のもとで版画を学びます。それと同時に、浮世絵制作の作業からヒントを得て、原画を描く人と彫る人、刷る人からなる分業体制を確立し、用紙として和紙を使うことをイヌイット住民に伝えました。

イヌイットの版画制作は、日本の版画や浮世絵という、伝統文化なくしては成り立たなかったのです。



◎展示品

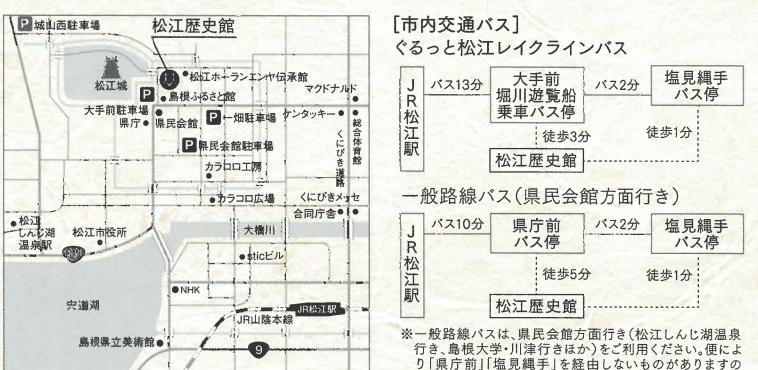
イヌイット版画・イヌイット民族衣装・玩具・石彫 約100点
(国立民族学博物館所蔵)
平塚運一氏 版画

◎ギャラリートーク

「イヌイット版画のみどころ」
1月17日(金)オープニングセレモニー後
[会場] 松江歴史館 企画展示室
[講師] 斎藤玲子氏(国立民族学博物館 民族文化研究部助教)

◎講演会

「イヌイット版画の成立」
1月19日(日) 10:00~12:00
[会場] 松江歴史館 歴史の指南所
[講師] 小林正佳氏(天理大学総合教育研究センター教授)
※席に限りがございますので満席の場合はご了承ください



[自動車]

大阪方面から
中国自動車道→米子自動車道→山陰道
九州・広島方面から
中国自動車道→山陰道
(三次松江間開通しました)

○展示室以外の施設は入場無料ですので、お気軽にお越しください。